

2 兵庫県におけるトマト黄化葉巻病 (TYLCV) の発生

はじめに

トマト黄化葉巻病（病原ウイルスTYLCV：Tomato yellow leaf curl virus）は東海、四国、九州などのトマト産地で猛威を振るっている。県内では2006年10月に初発生を確認し特殊報を発表した。本病は早急の対策が必要であり、特に現地では迅速な同定と罹病株の除去が重要である。そこで本病害の特徴及び防除対策、県内における発生概要について紹介する。

成 果

(1) トマト黄化葉巻病とは

発生初期は新葉が葉縁から退緑しながら巻き、葉脈間が黄化し縮葉する（写真）。病徴が進むと株全体が萎縮する。発病後では開花後結実しないことが多い。タバココナジラミによる虫媒伝染、接木伝染はするが汁液、種子、土壌、経卵による伝染は確認されていない。

(2) 県内における発生状況

2006年10月に県南部の施設トマト、ミニトマトほ場で黄化症状が見られる株が普及センターを通じて持ち込まれた。その株を（独）九州沖縄農業研究センターへPCR法による遺伝子診断を依頼した結果、県内におけるTYLCVの初発生と判明した。

初発生以降、2007年4月現在、県南部4市5ほ場で発病を確認した。発生ほ場の状況は表のとおりであるが、①すべて自家育苗での発生、②媒介虫の密

度が高い8、9月の定植に多発、③細かい防虫ネットの不徹底、という傾向があった。

(3) タバココナジラミバイオタイプQの発生

TYLCVはタバココナジラミのバイオタイプB及びQが媒介するがQについてはピリプロキシフェン（ラノーテープ）が効きにくく問題となっており、県内においても2006年11月に南部において初発生が確認され特殊報を発表した。2007年4月現在県南部2市で発生が確認されている。

(4) 防除対策

①罹病株を早期発見・抜取り、②徹底したタバココナジラミの薬剤防除、③ハウス開口部に目合い1.0mm以下（0.4mmが望ましい）の防虫ネットの設置、④周辺雑草・保毒率が高く感染源になる危険性が高い野良生えトマトの除去、⑤収穫後ハウスの蒸し込み処理、⑥定植前の苗のチェック⑦媒介虫の発生が多い8～9月の定植を遅らせる作型変更、などが挙げられる。

今後の方針

病害虫防除部ではPCR法によるTYLCV、タバココナジラミのバイオタイプの検定を開始した。この検定により、より迅速な診断が可能となり、現地対策に役立てたい。

松浦 克成（農業技セ・病害虫防除部）
（問い合わせ先 電話：0790-47-2448）



図 県内で初発生したトマト黄化葉巻病

表 兵庫県内におけるTYLCVの発生状況の概要

発生時期	発生場所	品種	育苗	定植時期	防虫ネット	その他
H18.10	A市	ハウス桃太郎	自家	8月中	1mm	
		ルネッサンス				
H18.10	B市	千果（ミニ）	自家	9月下旬	1mm	育苗時ネットなし
H18.10	B市	桃太郎ヨーク	自家	8月中	0.4mm	
H19.1	C市	大玉（不明）	自家	10月中	なし	
H19.4	D市	桃太郎ヨーク	自家	1月上	なし	